

会議の概要

会議名	第2回宝塚市民文化芸術振興会議
開催日時	令和6年2月8日(木) 16:00~18:00
開催場所	宝塚市役所 4階 研修室
出席委員	(出席) 藤井委員 谷口委員 梅田委員 栗本委員 柳楽委員 越知委員 田中委員 小島委員 三戸委員
公開の可否	可
傍聴者	なし
議題及び結果の概要	<p>1 開会 会議の成立 (宝塚市民文化芸術振興会議規則第5条第2項の規定により成立)</p> <p>産業文化部長挨拶 今回の会議では、昨年度と今年度12月末までの取組実績をご報告する。報告が中心になるが、委員の皆様からご意見をいただければと思う。来年度に市制70周年を迎えるにあたり、市民活動団体への補助事業を行っている。市民とともに盛り上げていきたい。</p> <p>2 議題 本会議は原則公開であるが、今回傍聴希望者はなし。</p> <p>委員：今回の議題に入る前に、前回までの会議で行った文化芸術センターの評価について、意見を言わせていただきたい。 センターは宝塚文化のハブ的な施設として整備された重要な施設であり、この会議は、センターの管理運営について外部委員により評価を行い、より良い施設になるよう各委員から意見を出していく場だと考えている。 昨年度に各委員が文化芸術センターの展示を見て評価を行い、昨年夏の会議で評価の取りまとめを行ったところ、各委員からは厳しい点数が付いていた。 評価の結果を踏まえ、この会議の場で具体的な事業案等を出し合い、次期指定管理者の選定や今後の管理運営に反映する必要があると思うが、今回の会議資料を見て、更なる議論は行わないことを知り残念に思った。 センターについては9月市議会でも厳しい意見が出ており、産業文化部長だけでなく副市長も答弁されていたが、その後センターに行ったところ、展示やワークショップをととても良い形で開催されており、来場者の表情もとても良かったため、議会の意見を受けて改善されたのだと感じていた。 しかし、この会議には1年半出席したが、各委員からの意見を反映できていない。 今年度は次期指定管理者の選定が行われると聞いているが、この会議の場でもっと議論し、具体的な改善策やアドバイスを選定委員に伝えなければなら</p>

ないのではないか。

また企画展「宝塚に映画館があった頃。」を小学生に見せる取り組みを行ったようだが、今の学校では、アート作品を見ながら「何に見える？」とゲーム感覚で問いかけるような教育を行っている。そのような良い教育を受けている子どもたちが、このような展覧会に来てくれると思っていることに、認識のずれを感じる。

事務局：令和7年度からの文化芸術センターの指定管理者選定を昨年夏に行い、候補者が宝塚市文化財団に決定し、3月議会の議決を経れば正式に決定する。当会議の委員も1名、選定委員会に参加いただき、選定委員会の会長にも当会議の評価結果をお伝えし、評価を踏まえて選定していただいた。評価の取りまとめについては、前回の会議後、会長と副会長に諮ったうえで決定し、委員の皆様へ送付した。また指定管理者への説明の時間を設け、委員からの意見を可能な限り全てお伝えした。その上で、指定管理者としてどのような事業を行いたいかを現在、取りまとめている。また、評価の結果は、次期指定管理者にも伝えていく。

9月市議会後にセンターを訪問され、良くなっていたとおっしゃっていただいたが、事業は長期間かけて準備しているため、議会の意見をすぐに反映できたわけではないと思う。良い企画展が開催されている時もあればそうでない時もあると思うが、委員の皆様からのご意見を反映してより良い施設になるよう、市として取り組んでいきたい。

委員：評価結果を伝えたと言うが、他の委員の意見を聞くことで意見が変わってくることもあるため、最初に出た意見をただ取りまとめるだけでなく、この会議の場で議論していくことが必要だったと思う。この会議の委員はそれぞれの視点でご意見を持っていると思うので、それを指定管理者に直接伝えるべきだった。

事務局：今回、審議会の中で指定管理業務の評価を行っていただくことは、本市の他の施設も含めて初めての試みであったため、取りまとめ方法や指定管理者への伝え方について、今後改めて検討したい。

センターの設置目的は、文化芸術・にぎわい・コミュニティなど様々あるため、指定管理者選定にあたっては、様々な分野の委員に参加いただいた。当会議や議会からの意見はすぐに反映することはできず、時間をかけて企画を練っているため、当会議でいただいた意見が反映されているかどうかは、令和6年度の事業計画でご確認いただきたい。アウトリーチや子ども向けの企画が弱い点など、指定管理者に改善をお願いしているところである。

会長：この会議は色々な分野の方の意見を出して市の文化政策に活かしていくために設けられているため、まずは事業を俯瞰することが必要である。文化芸術センターの評価については、他に評価を行えるような会議が無いた

め、参考意見としてこの場で評価することになった。  
文化芸術センターは新しい文化をつくっていくハブになる場所であり、アートは、農業や教育など様々な分野と結びつくことのできる懐の深さを持っていると考えている。

この会議の中に分科会等を設けてセンターについて深く議論できる場があれば良いが、まずは文化事業全体について、各委員の意見を聞き反映していく必要があるため、事務局から説明をお願いする。

事務局 【資料2、3-1、3-2、4】に添って説明。

会長：特別すごいという事業は無いかもしれないが、少しずつ上向きになってきているという印象を受けた。これから市民と一緒に育てていけるような施策を講じることが必要である。

各委員から、事務局の説明に対してご意見を順に伺いたい。

委員：令和6年度事業の源氏物語絵巻など、興味深いものが多かった。この年末年始にヨーロッパで美術館を見てきたが、美術館がポピュラーになり、以前よりも多くの方が来場されていた。また、スマホで館内を撮影している方が多く、世界的に、文化に触れる場所の在り方が変わってきているという印象を受け、私たちも考えていく必要があると感じた。

委員：【資料2】から様々な取組をしていることはわかるが、「開催してどうだったのか」が分かる資料が欲しい。開催した当事者が感じた反省や振り返りも書いてあると、委員から様々な提案ができると思うし、市としても「文化芸術の薫るまち」としてどのようなことがしたいかが見えてくるのではないか。文化芸術センター開館前からこの会議で、「宝塚はどんなところ？」と質問しているが、市から明確な回答がない。

「宝塚に映画館があった頃。」で市民から集まった作品を見てどうだったか、施設の稼働率が低いことについてどうすれば改善するか、などの当事者が感じた反省や課題を資料に書いてもらえれば、今後活かせる議論ができる。宝塚の子ども向け事業は小学生が対象になっているが、幼児向けの取組も行い、幼児から小学生へと繋がるような取組が必要。

例えば茨木市ではコンセプトがはっきりしており、子育てしたくなるような取り組みが多い。宝塚は「文化芸術薫るまち」を目指しているが、表現が曖昧なため、その中で何を指すのかが分かると良い。そして宝塚の様々な取組を俯瞰したときに、各取組の位置づけが分かるようになると良い。

委員：この会は文化芸術を俯瞰する会議だと思っている。文化芸術振興基本計画では取組の方向性として7つの柱を設けたので、今後事業を行う際は、方向性ごとの成果が見えると意見を言いやすい。また現在は、既存の事業を7つの方向性に当てはめて分類していると思うが、反対に、各方向性を達成

するには何をすべきかという視点で積極的に考えてほしい。  
宝塚には多くの資源があり、公民館に登録して活動している団体も多いが、それらを発信する力が弱いので強化が必要。  
先日、市公式インスタグラムで選挙のPR記事があったが、以前から宝塚はネガティブな打ち出しが多い印象を受ける。もっと夢を見られるようなPRが良いのではないか。

委員：多くの事業をしており評価できるが、一方で、他の自治体でもできるような事業が多い。宝塚としての特色や強み、他都市との違いが何か、また芯になるものが何かという議論を課内や部内で行い、この会議の場でも議論することが有益である。

例えば豊岡市では文化政策の基本計画で、芸術をメディア芸術と伝統芸能に絞り込み、平田オリザ氏に依頼し舞台芸術を伸ばしていこうとしている。  
宝塚には歌劇をはじめとして芯になるものは絶対あるので、その点を議論し、「だからこそ他とは違う」という指針を持つことが必要。

委員：【資料2】のように事業を方向性ごとにまとめることで、事業の目的が可視化されており、複数の目的があることにも気付けるようになってきた。  
今後はこの資料をもとに、他自治体とも比較しながらこれからの事業展開を議論する必要があるが、その際には、事業費や人件費についても考慮して施策に反映する必要がある。

前回の会議で、全国公立文化施設協会からの提言を情報提供したが、指定管理者制度は現在の急激な物価高騰や人件費高騰に追いついておらず、全国的に、指定管理料と施設利用料だけでは事業費を賄えない状況になっている。  
宝塚においても、やりたい事業を十分にできるだけの財源が投入されていないと考えている。

文化芸術センターでの校外学習についても、令和2～4年度までは国の補助金があったため多くの学校が参加したが、補助金が無くなってからは、学校でねん出することが難しく、参加が無くなった。文化施設も学校も厳しい状況だが、地域とも連携して取り組んでいかなければならない。

【資料4】の70周年事業一覧に記載されている市民活動補助事業について、100%補助であることが評価できる。現在、50%補助が増えているが、全額補助になれば例え5万円など少額でも、市民団体が活動を始める支援になる。

委員：他の委員の意見を受けて述べさせていただくが、事業を開催した当事者からの振り返りの声が欲しいという意見に同意する。

また、7つの方向性については、表にしたり樹木のように書くと初めて見た人でも分かりやすくなる。

宝塚の特色については、歌劇の本拠地であることが一番の特色だと思うが、そこも自慢して良いのではないか。

私もパリに住んでいたが、世界的に、作品をスマホで撮ることで安心感を得る時代になっていると感じる。このような時代だからこそ、作品を見て何を感じたかが重要になると思う。小豆島のように自然の中に作品があれば、スマホで撮るだけではなく、風や自然を感じるができる。

アーツカウンシルネットワークに参加して、他都市の事業を勉強するのはとても良い取組だと思う。

70周年事業一覧のうち、SNS キャンペーンは市民の草の根運動に繋がるもので、とても良い。【資料3-1】の指標に「市民の文化活動に対する支援ができて」と回答する市民の割合」があるが、「できて」人は少なく、「普通」や「わからない」人が多くなっている。市の文化芸術事業を市民が自分事として受け取っていないということの表れだと思うので、市民みんなに参加して欲しいということが伝われば、もっと発展していくと思う。

委員：まんべんなく取組を行われているが、特記すべき、ベスト3、ワースト3の事業を理由と合わせて、次回以降教えていただきたい。きちんと分析することで次へのヒントを得られる。

宝塚市の中だけで活動している印象が強く、小林一三翁や宝塚歌劇団に関する事業を阪急等と連携すれば、池田市等からも来客があるかもしれない。また講座は1回だけでなく帯講座にするなど工夫すると更なる集客が見込める。

委員：各委員から素晴らしいご意見をいただきました。今後に繋げてほしい。

会長：スマホで作品を撮る人が増えていることについて、撮影することで作品への理解を深められるようなアプリの開発が行われている事例もある。芸術鑑賞の裾野が広がっていることを逆手にとって、取組を考えることもできる。

各取組について、課題等を振り返り、ベスト3・ワースト3を教えてもらえると、議論しやすいとの意見もあった。すべての事業を平等に振り返る必要もあるかもしれないが、ベストとワーストを選ぶ過程が、振り返りの第一歩になると思う。

「宝塚らしさ」の背骨が足りないということは計画策定の際も議論を行い、「文化の薫り高い」というテーマを決めた際も、このような曖昧な表現でいいのかという意見があったが、現在様々な取組を行い、「宝塚らしさ」の基礎を築きつつあると思うので、その上でどのような取組を行うかを考えていくことが今後の課題である。

市で行われている事業について、全体としては一定の評価はしたいが、今後の取組が重要だと思うので、当会議で出た意見を反映して、具体的なフィードバックをいただきたい。またこの会議は全体を俯瞰する場ではあるが、文化芸術センターについてもせっかく評価を行ったので、分科会を設けるなどして、直接指定管理者に意見を伝えられる場があれば良い。

事務局から連絡などあるか。

事務局：令和7年度からの文化芸術センターの指定管理者の候補者が宝塚市文化財団に決定し、3月議会の議決を経れば正式に決定する。

各委員からの意見について、【資料2】の事業取組一覧については、事業評価の枠を追加し、振り返りを記載する。

ワーストの事業は他部署の事業からは上げにくいですが、当課の事業や所管施設の事業の中で検討したい。

また、計画に定める7つの方向性に基づき、必要な事業を前向きに考えていかなければならないと改めて感じた。

委員：机上配布されているたからんまつりのチラシを見たが、文化芸術センターのキューブホールで、いけばな体験やミニお軸作りなど、他の施設でもできるような取組が行われており、悲しかった。

アートは日常生活の中にもあるものだがそれに気づいていない人が多いため、市民アンケートでも文化芸術に親しんでいないという回答が多くなる。文化芸術センターだからこそできる、アートに繋がれる取り組みを行い、それを発信していく必要がある。今の指定管理期間は来年度で終わるが、これを機に考えていただきたい。

会長：たからんまつりは宝塚の文化団体の協力のもと、親子連れを対象に裾野を広げるための取組として実施している。手軽に参加できるこのような事業も大切だが、これに留まらず更なる取組も必要だと思う。

委員：現在は文化財団がセンターを借りる形でたからんまつりを実施しているため、踏み込んだ取り組みができていない。また文化体験は各文化団体が手弁当で取組んでくださっており、子どもたちが文化に触れてもらうきっかけになったり、また文化団体同士の繋がりが生まれるという成果が出ている。今後、いただいた意見を踏まえて検討していきたい。

委員：「宝塚らしさ」について、この会議でずっと議論してきているが、市からはっきりした回答をいただけていない。「特色が無いのが特色」と回答があったこともある。約5年前のシティプロモーション動画は歌劇風に制作したり、現在の市広報誌の表紙に書かれているスローガン「わたしの舞台は たからづか」も歌劇を意識したものになっている。この方針で打ち出すのか、または他の方針を立てるのかを示していただければ、この会議の委員が力添えすることができる。

会長：先ほども言ったが、「宝塚らしさ」の基礎をつくる機運は醸成されてきていると思うので、その上にどのような柱を立てて取り組んでいくのかをみんなで議論して、市民誰もが我がこととして宝塚を盛り上げていけるよう

な施策を考えていきたい。またこの会議は文化事業全体を俯瞰する場であるため難しかもしれないが、分科会等の形で、個別の事業に提言したり参画できるような仕組みがあると、より良い議論ができるだろう。

### 3 閉会

事務局：今後の予定について、現在の委員の任期は本年 11 月までのため、4 月～11 月までのところで 1 回開催し、令和 5 年度実績と令和 6 年度事業計画をご説明する。また、事業取組状況の報告様式については、事業の成果や課題を記載するよう検討する。

本日はご審議いただきありがとうございました。